

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

北海道立北方民族博物館所蔵の北西海岸インディアンの版画について

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 玲子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5621

<資料紹介>

北海道立北方民族博物館所蔵の北西海岸インディアンの版画について

齋 藤 玲 子*

A Report about the Northwest Coast Native Silkscreen Prints Collected
by Hokkaido Museum of Northern Peoples
Reiko SAITO

This is a report about Northwest Coast Indians silkscreen prints collected by Hokkaido Museum of Northern Peoples. The museum stores 15 prints. Most of them were purchased in 1990's. All prints and the artists are noticed in this paper. Some of them will be shown at the 23rd special exhibition in 2008 Summer.

1. はじめに

本稿は、当館で所蔵している北西海岸インディアンの版画の紹介である。当館では、平成20(2008)年度に北西海岸インディアンの文化をテーマにした特別展を企画中であり、筆者は収蔵している関連資料の再確認を進めている。

また、平成19(2007)年度の国立民族学博物館共同研究に、研究課題「カナダにおける先住民芸術の歴史的展開と知的所有権問題 ―国立民族学博物館所蔵の北西海岸インディアンとヌイットの版画の整理と分析を通して―」(筆者代表)が採択され、カナダ先住民の版画に関する研究を行うこととなった。同研究は平成21(2009)年度まで継続予定であり、本文は版画を見る視点(データの項目)や作家の経歴、文献リスト等の確認・作成という点で、予備的調査として役立つものと考えている。

2. 収集の状況について

北方民族博物館の開館準備期間であった平成元年度(1990年1月)に、資料収集委員であった故・岡田宏明氏(北海道大学名誉教授/当館2代目館長)と筆者はアメリカ合衆国とカナダの都市部を回り、ギャラリー等で資料の購入を行った。資料番号H1で始まる10

* 北海道立北方民族博物館主任学芸員 (Hokkaido Museum of Northern Peoples)

キーワード 北西海岸インディアン、シルクスクリーン版画
Key Words Northwest Coast Indians, Silkscreen Print

点はこのときに収集されたもので、その他は平成10（1998）年にアラスカ州メトラカトラでの科学研究費による調査（岡田淳子氏代表／北海道東海大学名誉教授）のときに購入もしくは寄贈されたもの4点がある。また、網走市からの寄贈資料（資料番号HAで始まるもの）、および市民からの寄贈資料が各1点である。

当館では、生活用具や儀礼具、衣類など、実際に利用された資料の収集を優先させてきた。なぜなら、常設展示が寒冷地の環境への適応に主眼を置いているからであり、また、伝統的な物質文化が急速に失われていくなか、古い民具の収集は次第に困難になると予想したからである。そのため、版画のような現在の作家による作品は、積極的に収集してこなかった。

ただし、イヌイトの版画や石彫刻は、まとまった数での販売の斡旋があり、平成6年度に230点を収集しており、平成16年に寄贈資料も加わったことから、国内でも有数のコレクションと呼べる内容と点数を所蔵している。それらは過去に企画展等で展示され、観覧者からの好評を得ている。

将来的に博物館における現代の芸術的作品の収集の方針や、展示の意義を検討するうえで、所蔵されている作品を分析することは不可欠と考えている。

3. 北西海岸インディアンの版画（シルクスクリーン）について

当館では、アラスカ州南部からブリティッシュ・コロンビア（以下BC）州、そしてワシントン州にかけての北アメリカの太平洋岸に暮らしてきた民族グループの総称として、「北西海岸インディアン」を用いている。近年、インディアンという言葉は使われなくなってきており、カナダではFirst Nations、アメリカでもNative等が主流になってきているので、検討の余地があるが、ここでは従来どおりの呼び方を踏襲しておく。

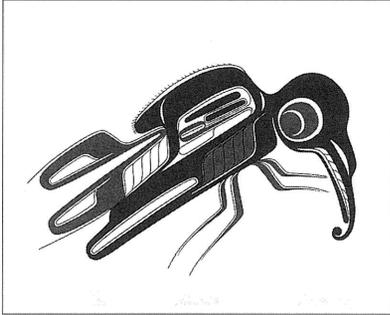
北西海岸インディアンの歴史や文化についての概略はここでは割愛するが、トーテムポールを代表とするユニークな芸術は世界的に知られている。シルクスクリーンは1960年代後半から始められた新しいメディアである。伝統的なトーテムや説話を表現したものが多い。主に販売用や儀式での贈答品用などとして作られ、美術館からの評価も得ている（小谷 1992；大村 2001ほか）。

日本では、国立民族学博物館が700点近い版画を所蔵しているほか、野外民族博物館リトルワールドが約40点を所蔵している。

4. 作品およびアーティストの詳細

当館に所蔵されている北西海岸インディアンの版画は、平成19(2007)年11月現在ではわずか15点である。平成元年度収集の資料10点は、1990年1月に購入しているため、80年代の作品が多い。寄贈資料のいくつかは90年代の作品である。2000年以降は収集されていなかったが、平成19(2007)年度に若干数を収集予定である。

以下に、各資料を紹介する。資料番号、英タイトル（和訳）、作家名、制作年、（刷数
版画制作工房）の順に挙げ、説明を添えたものもある。



H1.56.1 「Mosquito (蚊)」

Art Thompson 1981年作 (131/200 OPG^{注1})

蚊は、芸術のモチーフとしてさほど一般的ではない
が、血を吸う習性から、関連する説話は多い。

* 75年にも同タイトル「蚊」という作品がある。



H1.56.2 「Raven Defeats Grizzly (ワタリガラス
がクマをくじく)」

David Boxley 制作年不明 (124/200)



H1.56.3 「Eagle + Blackfish (ワシとブラックフィッ
シュ)」 Danny Dennis 1987年 (89/100 OPG)

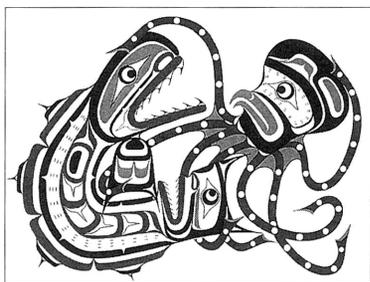
タイトルの順番にモチーフ左側は嘴の形状、翼を持つことからワシであり、右側がブラックフィッシュであろう。ブラッ
クフィッシュは魚ではなく、pilot whale (コククジラを指
す)とされる (Shearar 2000)。頭部後方に噴気孔と思われる
円が表されていることから、クジラと考えてよいだろう。



H1.56.4 「Kwakiutl Sun (クワキウトルの太陽)」

Ross Hunt 1987年 (165/200)

* 同タイトルは1999年にも制作されている。



H1.56.5 「Southern Kwagiulth Sculpin & Octopus (南クワキウトルのカジカとタコ)」

Calvin Hunt 1987年作 (28/110 OPG)

Sculpin (もしくはBullhead/カジカ) は食物としては軽視されているが、芸術ではシャマンの補助霊などとしてその力が認められているという。Octopus (タコ) もまたシャマンに関連するものに描かれる

(Shearar 2000)。



H1.56.6 「Kwagiulth Cormorant Design (クワキウトルの鵜)」

Tony Hunt 1981年 (194/400)

ウは飛翔と潜水の両方の能力に長けていることから、シャマンに関連するものとしてよく描かれる (Shearar 2000)。



H1.56.7 「Kwakiutl Thunder Bird Drum(クワキウトルのサンダーバードの太鼓)」

Calvin Hunt 1989年 (33/100 OPG)

太鼓の膜面用にデザインされたサンダーバード (架空の動物)。版画には、太鼓、木箱 (Bentwood Box)、住居壁面 (House Front) など、伝統的に描かれてきた二次元のデザインが利用されていることも少なくない。



H1.56.8 「Raven Dancer (ワタリガラスのダンサー)」

Reg Davidson 1989年 (75/85)



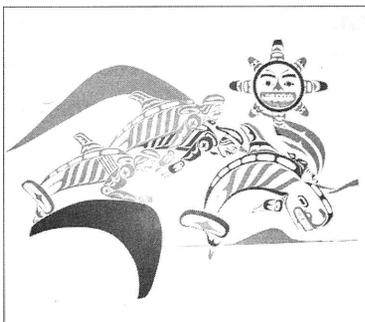
H1.56.9 「Raven Sun (ワタリガラスの太陽)」
Danny Dennis 1989年 (53/100 OPG)



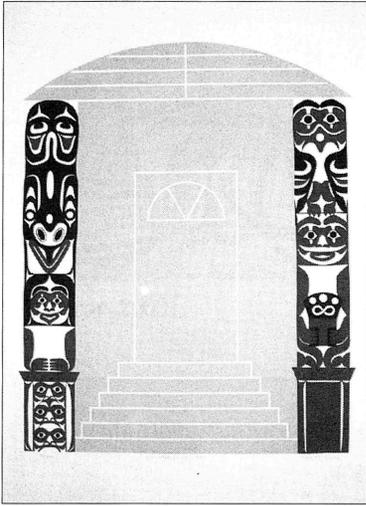
H1.56.10 「Thunderbird Eating a Whale (クジラを食うサンダーバード)」
Art Thompson 1986年 (47/100 OPG)
蒸し曲げ木箱 (Bentwood Box) の表面のデザイン。



H10.87 「Raven and Frog (ワタリガラスとカエル)」 Jack Hudson 1997年 (52/100)
解説文あり。カエルはワタリガラスが傷ついたときに、それを治す力を持っているという。



D10.4 (タイトル不明)
Janice Swan 1985年 (3/15)
網走市民から寄贈されたもの。制作者は当時、ポートアルバーニの高校生だったということ以外の情報がない。インターネットで氏名を検索したが、特定できず、その後作家として活躍しているかどうか不明。モチーフは、説話の一場面を描いたもののようにであり、今後の調査で明らかにしていきたい。



D10.10 「Killer Whale and Eagle Pole (シャチとワシのポール)」

Wayne F. Hewson (38/100) 制作年不明

作家が住むアラスカ州メトラカトラのホテル入口に建てたトーテムポールのデザイン。オーナーの家族を表現している。



D10.11.4 「Killer Whale and Eagle Bentwood Box Design “The Brother” (シャチとワシの木箱のデザイン『兄弟』)」

Wayne F. Hewson (136/200) 制作年不明



HA60 (タイトル不明)

Sara Porter 1983年 (31/50)

作家については、今回、調べが至らなかったが、“The Chilkat Dancing Blanket” という本の挿画を描いている (Samuel 1982)。衣装のデザインやポーズから、同書の表紙や章扉等に掲載されている Tony Hunt を写した写真をもとに描かれたものと考えられる。

アーティスト（作家）について

ヌートカ (ヌチャヌルスNuu-chah-nulth) の作家1名 2点

・ Art Thompson (ヌートカ語名Tsan-Quass-Upp) の版画は2点収蔵されている。

1948年BC州のNitinat Village of Whyac生まれ (2003年逝去)。革新的な (innovative) 版画作家として知られる。1973-74年からシルクスクリーン版画デザイナーとして活動。Ron HamiltonとJoe Davidに学んだ。ちなみに当館に収蔵されている同氏の作品には他に仮面 (H1.61) がある。

クワキウトル (クワクワカワクウ Kwakwaka'wakw) の作家3名 計4点

・ Tony Huntは1942年BC州Alert Bay生まれ。少年の頃から、著名な文化伝承者の一人であり、彫刻家であったMungo Martin (母方の祖父) に彫刻や踊りを学ぶ。1962年Mungoの死後、首都Victoriaのサンダーバード公園にて、父Henryとともに州立博物館 (当時) の仕事を請け負う。70年にThe Arts of Raven Galleryを創設、高品質な作品の制作・販売や若い芸術家の指導にも力を注ぐ。日本国内では、Tonyが制作したトーテムポールが国立民族学博物館の野外に1基、展示室内に2基ある。

・ Calvin Huntは1956年BC州Fort Rupert生まれ。10代前半から親戚であるHenry・Tony親子に教えを受け、71年から81年まではTonyのギャラリーで学ぶ。76年に初めてシルクスクリーン8作品を発表した。81年からはFort Rupertに移り、The Copper Maker創設。トーテムポールなど大型の木彫を得意とし、千葉市にも3基がある。

・ Ross Huntは1948年生まれ、BC州Fort Rupert出身 (Calvinの兄弟)。父Thomas、母Emmaといった家族らから文化を伝承される。おじのHenryに4年、息子TonyにThe Arts of Raven Galleryで6年学ぶ。

<ハント (Hunt) 一族について>

アメリカの人類学者Franz BoasがインフォーマントとしたGeorge Huntを祖先に持つ一族で、アーティストとして活躍する者が多い (The Legacy 1988)。

ツィムシヤンの作家 4名 計6点

・ David Boxleyは1952年アラスカ州Metlakatla生まれ。Metlakatlaで中・高校の教師を務めている間の1979年に伝統的なツィムシヤンの彫刻を学び始め、86年から彫刻と芸術の研究に専念。トーテムポールをはじめ各種の木彫および版画を制作するほか、踊りやショーなどのパフォーマンスも手がける。

・ Danny Dennisは1951年Gitskan Village of Kitwanga生まれ。カエルのクラン。78年よりプロの作家として活動。独学だが、助言者としてFrancis WilliamsやRobert Davidsonの影響を受けたという。(Macnair eds. 1980)

・ Jack Hudson

1936年アラスカ州Metlakatla生まれ。Bill Holmのもとで学んだ後、1974年に故郷に戻り、民族芸術の教員として生徒の指導をしつつ、作家としても活躍を続けている。1975年

にアメリカ大使館主催の「大アメリカ展」のために来日し、百貨店の催事場でトーテムポール彫刻の実演を行なったことがある。

・Wayne F. Hewsonは1952年アラスカ州Metlakatla生まれ。67年にWrangellの寄宿学校に行ってから、北西海岸の芸術について学ぶ。故郷に戻り、87年から描くことを再開、89年にDavid Boxleyに出会い、彼について6年間学ぶ。仮面、木箱、トーテムポールなどの木彫のほか、版画も制作している。

ハイダの作家1名 1点

・Reg Davidsonは1954年生まれ、クイーンシャーロット島Masset出身。長兄のRobert（1946年生まれ）はBill Reidのもとで学んだ。Regは77-78年にCharles Edensawを記念するハウスフロント（住居正面壁面）とハウスポスト（家柱）を制作中の兄に師事し、助手を務めた。彫刻のほか、シルクスクリーンも手がける。日本国内では、東京の玉川学園に同兄弟制作のトーテムポールがある（浅井 1996ほか）。

5. まとめにかえて

今回は、所蔵する15点の版画について、モチーフの簡単な説明と作家の経歴を紹介するに留まっている。北西海岸インディアンの芸術に関する文献は多くあるが、版画に関するものはさほど多いとは言えない。また、作家の経歴等については、文献のみならず、博物館・美術館・ギャラリー等のウェブサイトにも多くの情報があることが確認できた。

国立民族学博物館共同研究による版画の研究はまだ緒についたばかりで、課題は多々ある。版画のもつ情報の分析のみならず、社会・文化的な意味についても調査研究していきたいと考えている。

注

1) 「OPG」と記した資料は版画製作会社Open Pacific Graphics のエンボス（浮き彫り）スタンプが押されているもの。同社は1971年創設、68年から先住民の作家たちと協同でシルクスクリーン制作を始める。現在はPacific Editions Ltd.と改名。BC州ヴィクトリア在。ウェブサイトも有る。

参考文献

浅井晃

1996 『トーテムポール世界紀行』 ミリオン書房：東京

AVERILL, Lloyd J. and Daphne K. MORRIS

1995 *Northwest Coast Native and Native-Style Art: A Guidebook for Western*

Washington. University of Washington Press: Seattle

HALL, Andy

2003 Career Carver: Metlakatla educator teaches students a vocation while preserving Tsimshian art. *Alaska* 69(9)

HALL, Edwin S, Jr., Margaret B. BLACKMAN and Vincent RICKARD

1981 *Northwest Coast Indian Graphics: An Introduction to Silk Screen Prints*. Douglas & McIntyre : Vancouver

HOLM, Bill

1965 *Northwest Coast Indian Art: An Analysis of Form*. University of Washington Press : Seattle and London

HOYT-GOLDSMITH, Diane

1997 *Potlatch: A Tsimshian Celebration*. Holiday House: New York

小谷凱宣

1992 「シルクスクリーンに表現されるもの」 加藤泰健ほか編 『アメリカ大陸の文様』(世界の文様5) 202-205 小学館:東京

The Legacy Ltd.

1988 The Hunt Family Tree: Contemporary Kwa-guilth Art. *The Legacy Letter* 6(1)

MACNAIR, Peter L., Alan L. HOOVER and Kevin NEARY eds.

1980 *The Legacy: Continuing Traditions of Canadian Northwest Coast Indian Art*. British Columbia Provincial Museum: Victoria

大村敬一

2001 「象徴の森 ～北西沿岸インディアンの象徴図像の世界～」『美しき北の文様』(第16回特別展図録) 36-48 北海道立北方民族博物館:網走

SAMUEL, Cheryl

1982 *The Chilkat Dancing Blanket*. Pacific Search Press: Seattle

SHEARAR, Cheryl

2000 *Understanding Northwest Coast Art: A Guide to Crests, Beings and Symbols*. University of Washington Press: Seattle

参考にしたウェブサイト

Calvin Hunt (Copper Maker Gallery)

<http://www.calvinhunt.com/>

齋藤 北海道立北方民族博物館所蔵の北西海岸インディアンの版画について

First Nations Art: An Introduction to Contemporary Native Artists in Canada

<http://epe.lac-bac.gc.ca/100/205/301/ic/cdc/artists/index.html>

Pacific Editions Ltd.

<http://www.pacifieditions.ca/index.php>

University of Alaska Museum, Northern Journeys Multimedia Resources

<http://www.uaf.edu/museum/journeys/multimedia/artist.html>